

「支援者を対象とする地域連携、人材育成、保護者支援等に関する調査」

札幌市自閉症・発達障がい支援センター おがる

1. 調査の目的

札幌市自閉症・発達障がい支援センターでは、発達障がいのある児・者支援における地域課題の検討に資するため、発達障がいに関わる直接支援や相談といった間接支援に携わる者を対象に、地域連携、人材育成、保護者支援、当センターの利用状況等に関する実態調査を行った。

なお本調査報告は「児童発達支援事業所、放課後等デイサービス」の所属と回答したグループの集計結果を記載する。

2. 調査概要

(1) 実施機関

2019年5月～同年11月まで

(2) 対象者

発達障がいに関わる直接支援や相談といった間接支援に携わる次の者

ア 子ども期の支援者

・児童発達支援事業所、放課後等デイサービスに所属する者：子ども期②と呼称

※ 除外対象

・一般、市民、保護者、当事者のいずれかの記載がみられた回答は除外した

(3) 調査方法

当センターが主催・共催する研修会や調査協力を得られた研修会で調査用紙を配布無記名で回答を求め、調査配布時に目的や集計方法、結果報告について説明

(4) 回答件数

161件（子ども期②に所属する調査協力者数）

(5) 調査実施主体

札幌市自閉症・発達障がい支援センター

(6) 主な質問項目

回答者の属性、支援者が困った時の相談先について、人材育成に関わる研修内容について、保護者支援の方法について、当センターの利用状況について

3 調査結果の概要

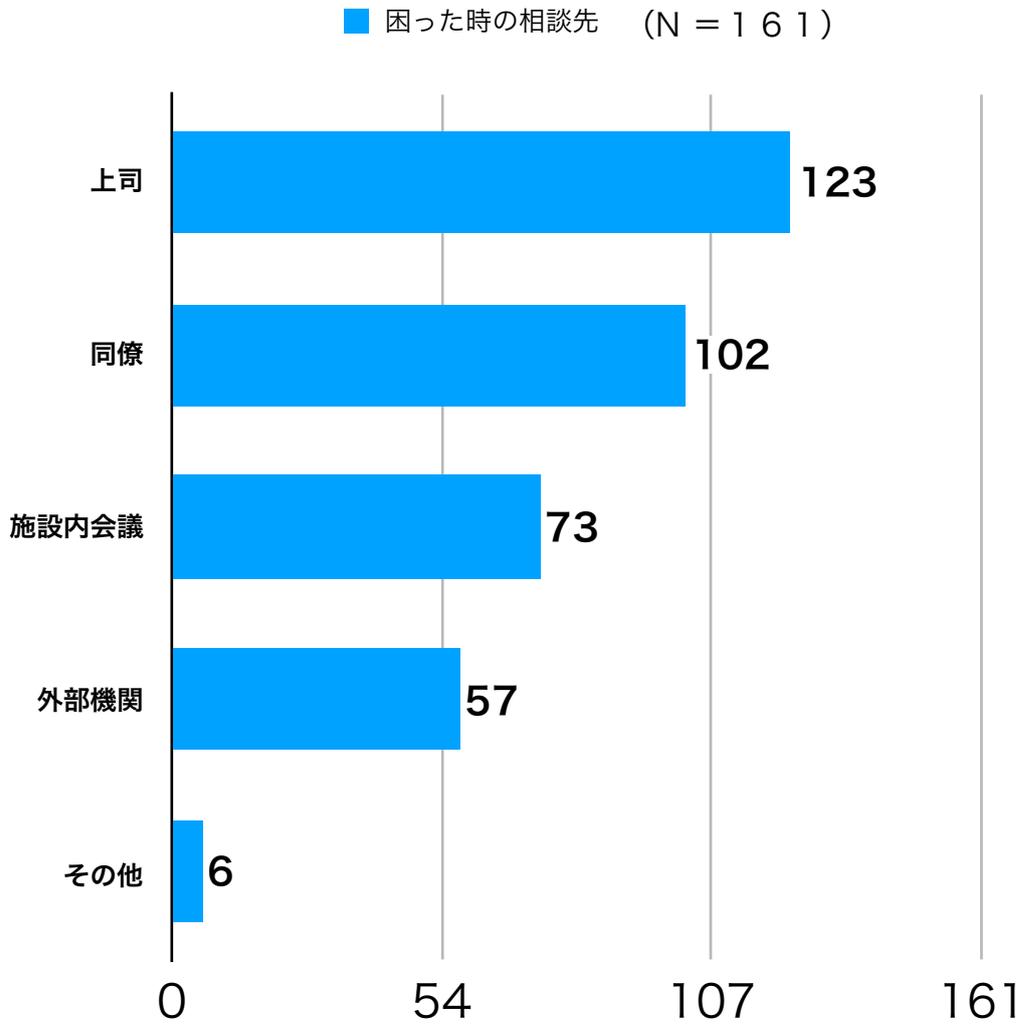
(1) 回答者の属性

◆ 子ども期②（児童発達支援事業所、放課後等デイサービスなどに所属する者）：161名

(2) 支援者が困った時の相談先について

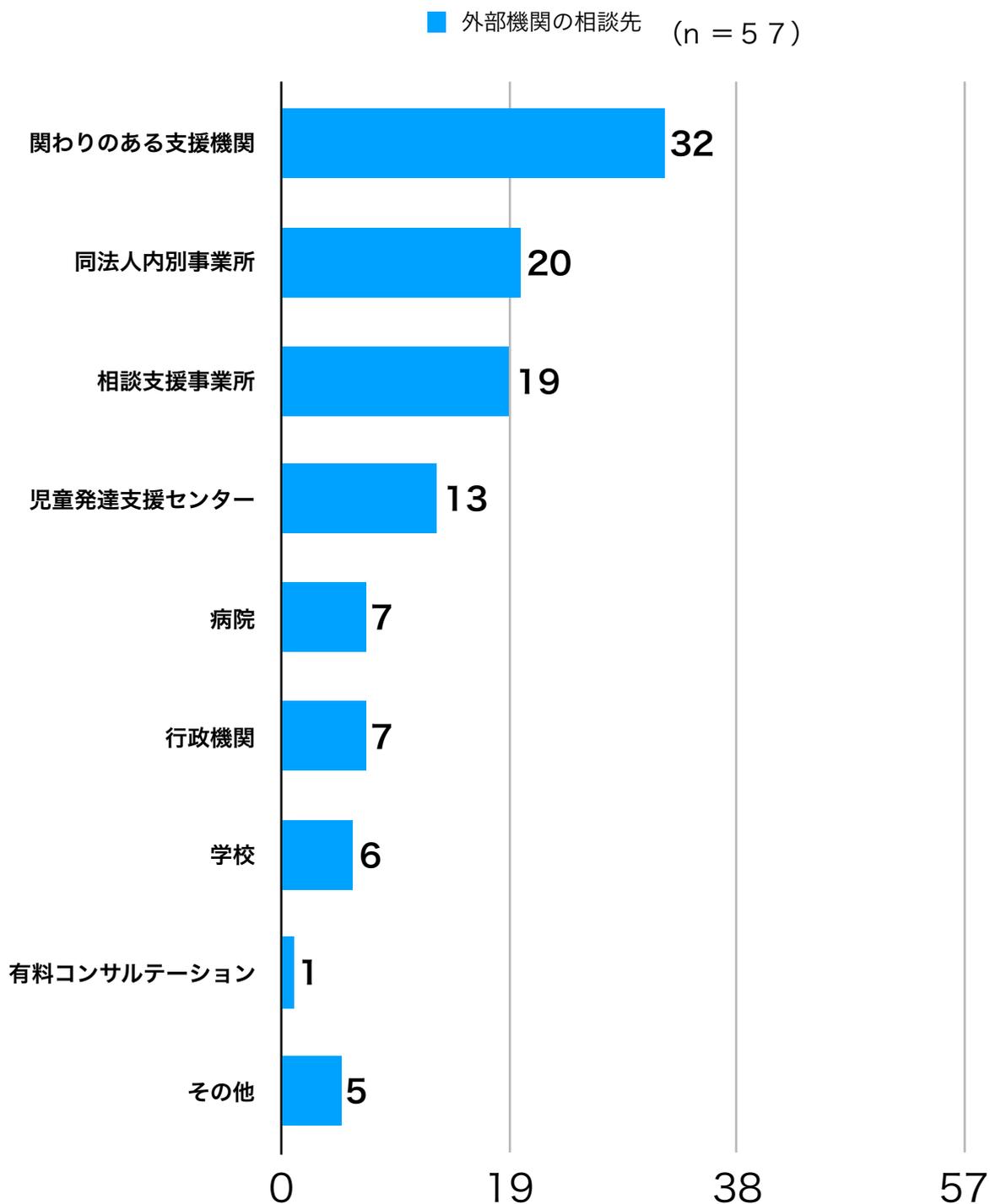
Q1 普段の支援において困った時はどちらに相談しますか

あてはまるものすべてを選択する形式の設問である。結果は「上司」(76.4%)、「同僚」(63.4%)、「施設内会議」(45.3%)、「外部機関」(35.4%)、「その他」(3.7%)となり、「外部機関」に相談するという回答は3割程度であった。



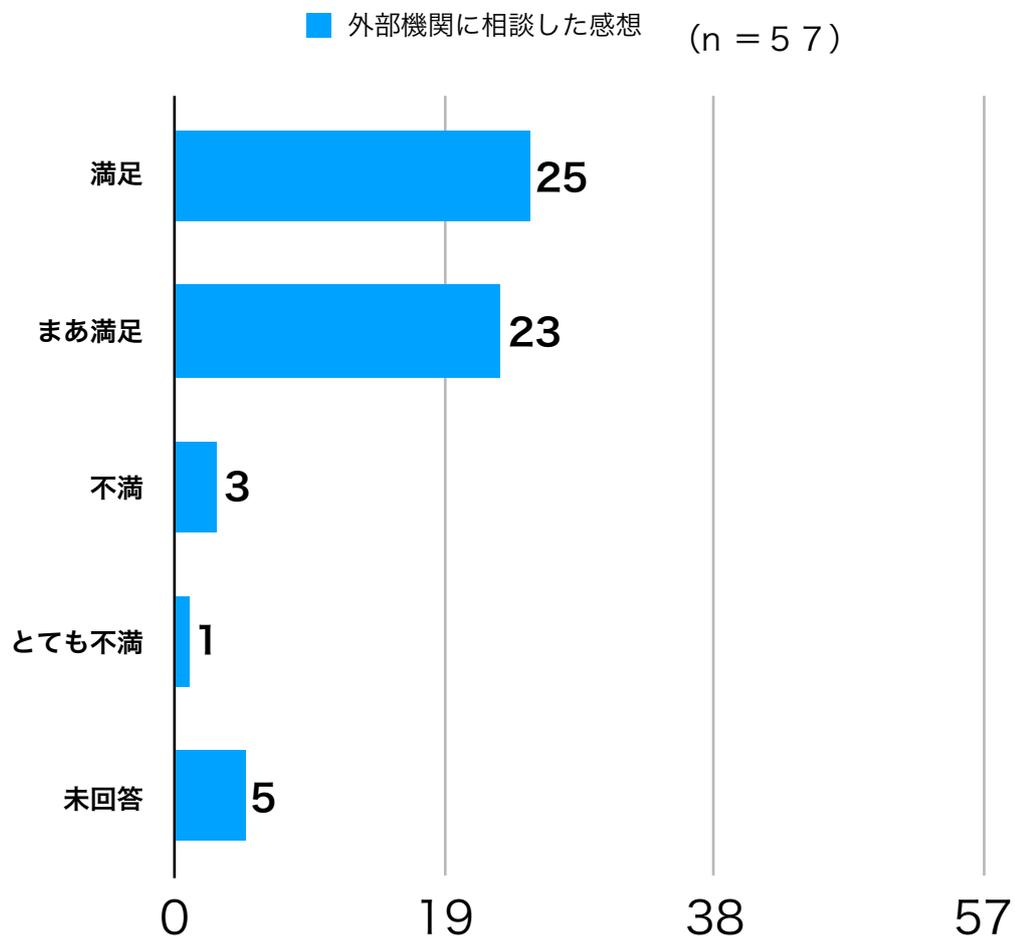
Q2 どちらの外部機関に相談しますか (Q1にて「外部機関」に丸をつけた方のみ)

あてはまるものすべてを選択する形式の設問である。結果は、「関わりのある支援機関」(56.1%)、「同法人内別事業所」(35.1%)、「相談支援事業所」(33.3%)、「児童発達支援センター」(22.8%)、「行政機関」(12.3%)、「病院」(12.3%)、「学校」(10.5%)、「有料コンサルテーション」(1.8%)、「その他(8.8%)となり、「関わりのある支援機関」が外部機関として最も多く利用されていた。



Q3 外部機関に相談した感想をお答えください (Q1にて「外部機関」に丸をつけた方のみ)

あてはまるものを1つ選択する形式の設問である。結果は、「満足」(43.9%)、「まあ満足」(40.4%)、「不満」(5.3%)、「とても不満」(1.8%)、「未回答」(5件)と、8割以上が「満足」もしくは「まあ満足」と回答していた。

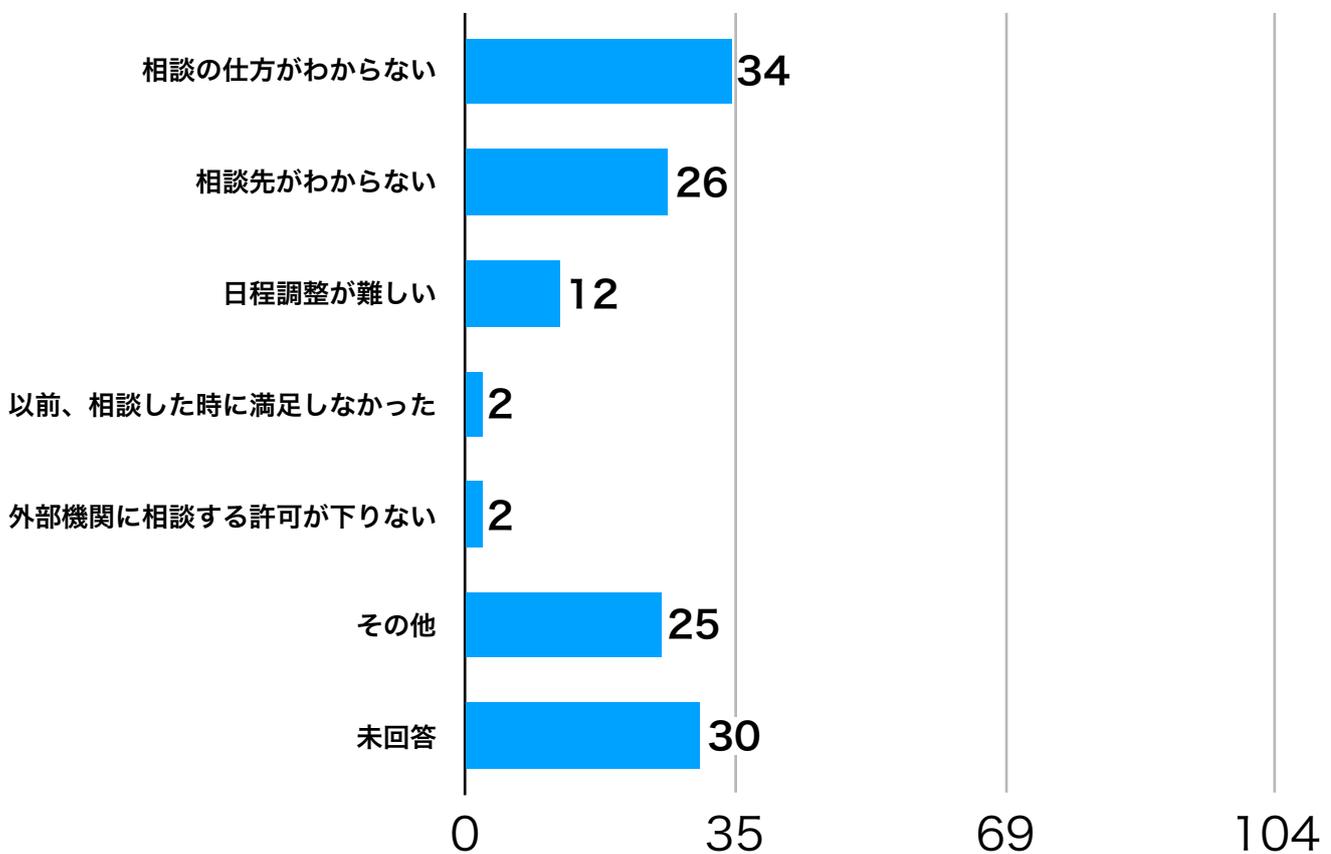


Q4 外部機関に相談しない（できない）理由をお答えください（Q1にて「外部機関」に丸をつけなかった方のみ）

あてはまるものすべて選択する形式の設問である。結果は「相談の仕方がわからない」（32.7%）、「相談先がわからない」（25.0%）、「日程調整が難しい」（11.5%）、「以前、相談した時に満足しなかった」（1.9%）、「外部機関に相談する許可が下りない」（1.9%）、「その他」（24.0%）、「未回答」（30件）となり、相談方法や相談先がわからないことが外部機関に相談しない（できない）理由の多数を占めていた。

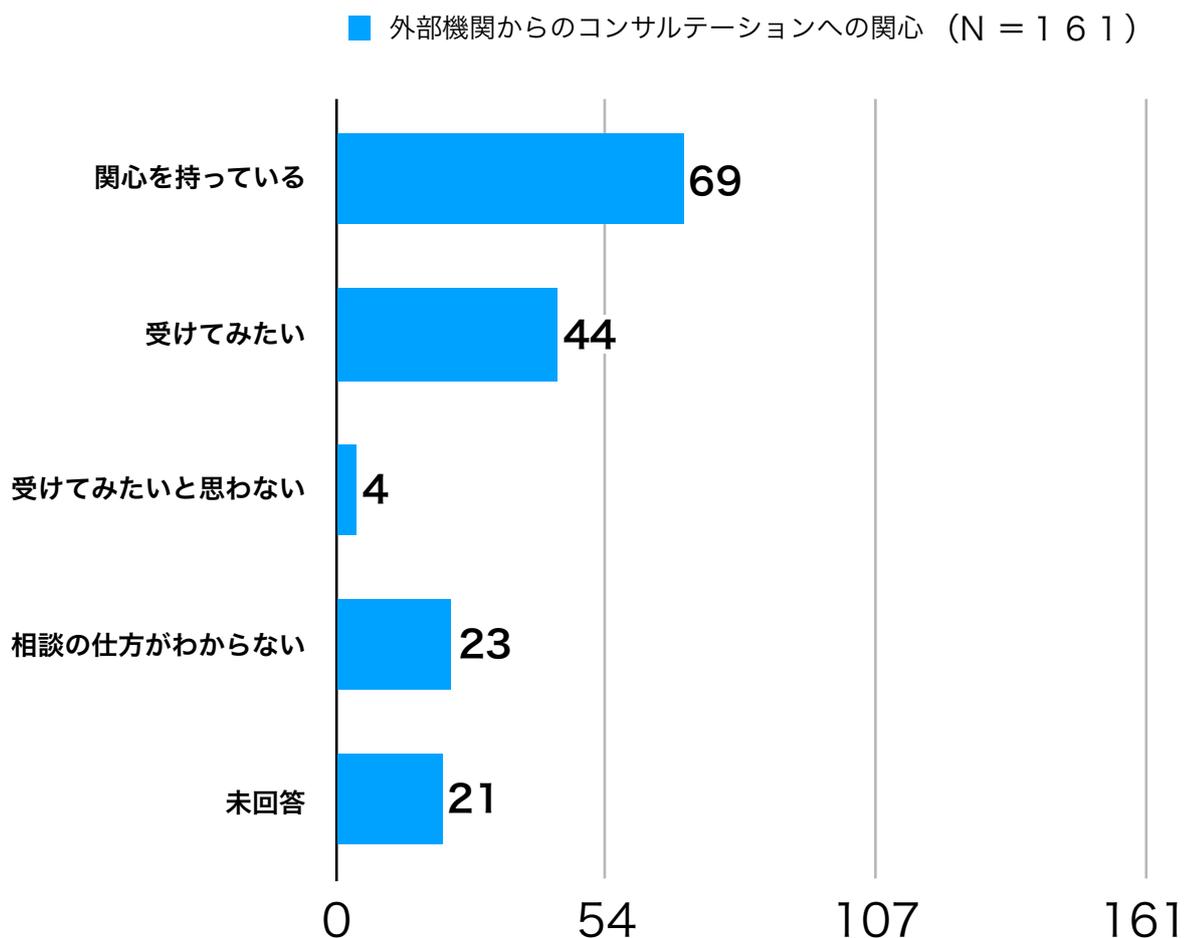
「その他」の回答では、外部機関に相談する必要性を感じない、上司から納得のいく助言をもらっている、個人情報なので相談しにくい、外部に相談するという発想がなかった、相談していいか不安などと記載されていた。

■ 外部機関に相談しない（できない）理由 (n = 104)



Q5 外部機関からのコンサルテーション（事業所訪問によるケース検討等）への関心をお持ちでしょうか。（A～Dのうち当てはまるものを一つ○で囲んでください）

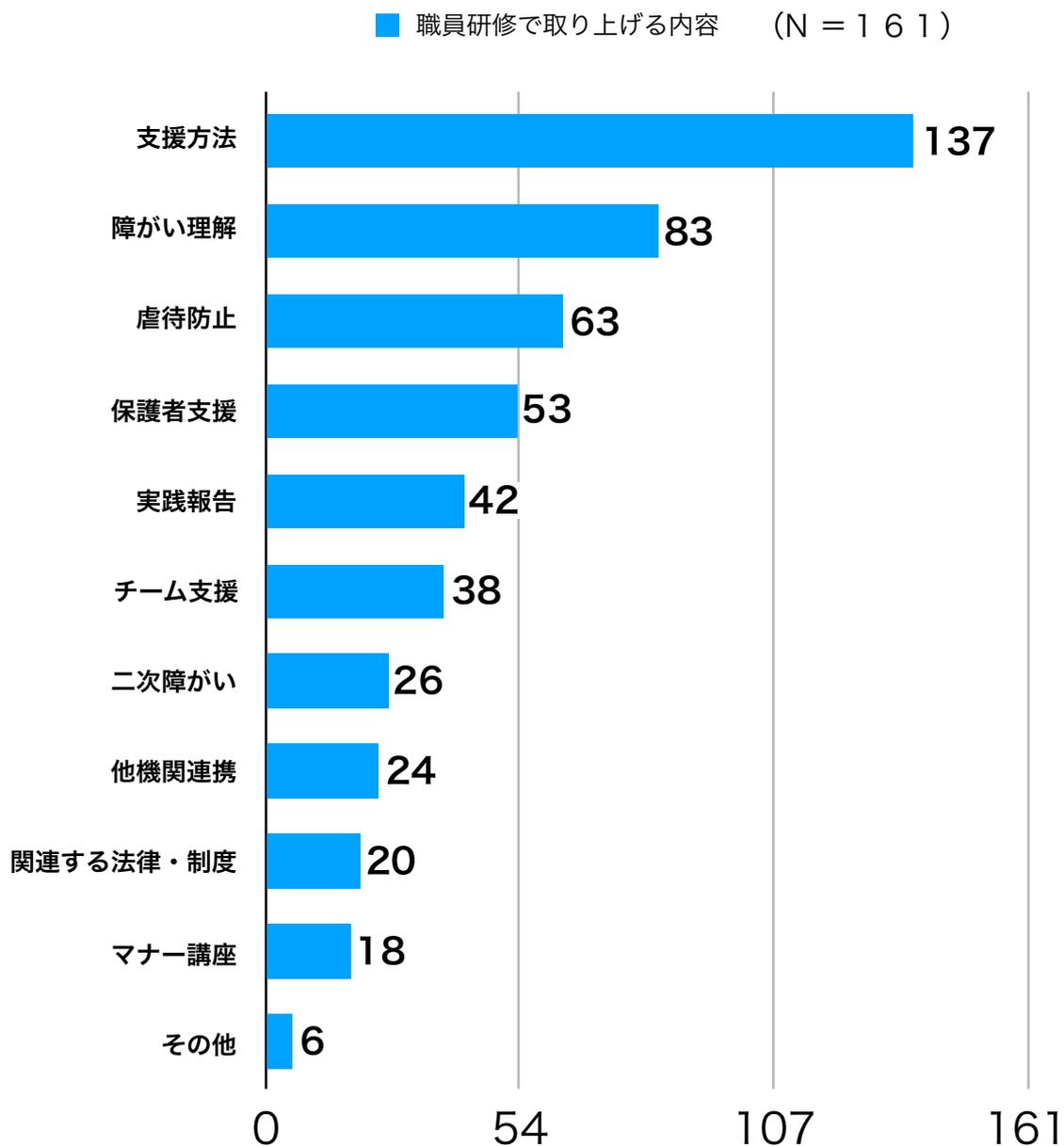
あてはまるもの1つを選択する形式の設問である。結果は「関心を持っている」（42.9%）、「受けてみたい」（27.3%）、「相談の仕方がわからない」（14.3%）、「受けてみたいと思わない」（2.5%）、「未回答」（21件）となり、2割以上が「受けてみたい」との回答をしていた。



(3) 人材育成に関わる研修内容について

Q6 職員研修では、どのような内容を取り上げていますか

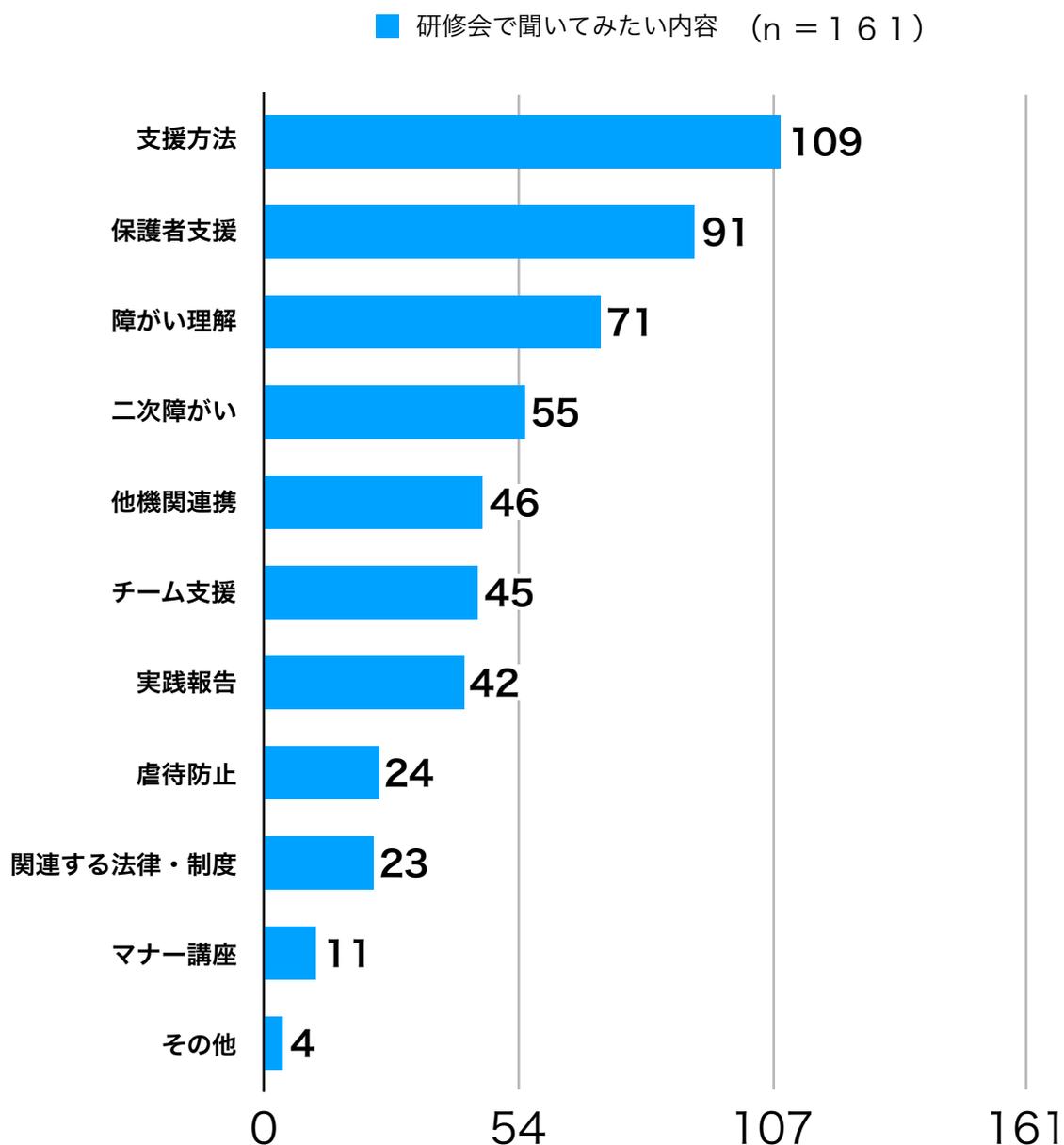
あてはまるものすべて選択する形式の設問である。結果は、「支援方法」(85.1%)、「障がい理解」(51.6%)、「虐待防止」(39.1%)、「保護者支援」(32.9%)、「実践報告」(26.1%)、「チーム支援」(23.6%)、「二次障がい」(16.1%)、「他機関連携」(14.9%)、「関連する法律・制度」(12.4%)、「マナー講座」(11.2%)、「その他」(3.7%)となり、職員研修では上述の3つのテーマが取り上げられていた。「その他」の内容には、職員意識の向上、アンガーマネジメント、防災などと記載されていた。



Q7 研修会で聞いてみたい内容を教えてください

あてはまるものすべてを選択する形式の設問である。結果は、「支援方法」(67.7%)、「保護者支援」(56.5%)、「障がい理解」(44.1%)、「二次障がい」(34.2%)、「他機関連携」(28.6%)、「チーム支援」(28.0%)、「実践報告」(26.1%)、「虐待防止」(14.9%)、「関連する法律・制度」(14.3%)、「マナー講座」(6.8%)、「その他」(2.5%)となり、研修会で聞いてみたい内容として5割を超えていたのは「支援方法」と「保護者支援」の2つであった。

「その他」には、性への関心・行動について、コンサルテーションの仕方、認知行動療法・母子共依存の介入方法などと記載されていた。

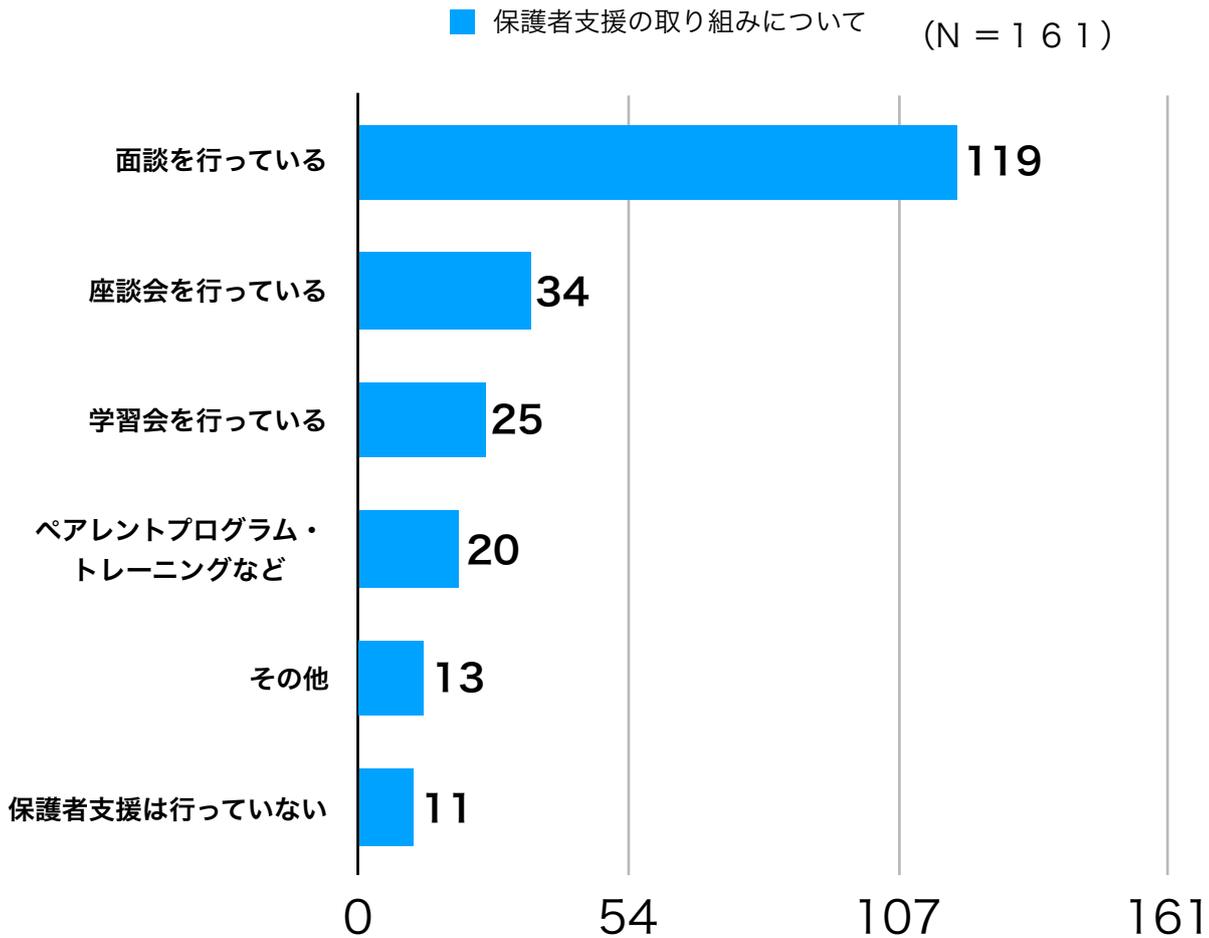


(4) 保護者支援の方法について

Q8 保護者支援の取り組みについてお答えください

あてはまるものすべて選択する形式の設問である。結果は、「面談を行っている」(73.9%)、「座談会を行っている」(21.1%)、「学習会を行っている」(15.5%)、「ペアレントプログラム・トレーニングなど」(12.4%)、「保護者支援は行っていない」(6.8%)、「その他」(6件)となり、保護者支援として大多数が「面談を行っている」と回答していた。

「その他」では、PCITの実施、ご家族トークデー、お祭り、参観日、保護者会、送迎時の声かけなどと記載されていた。

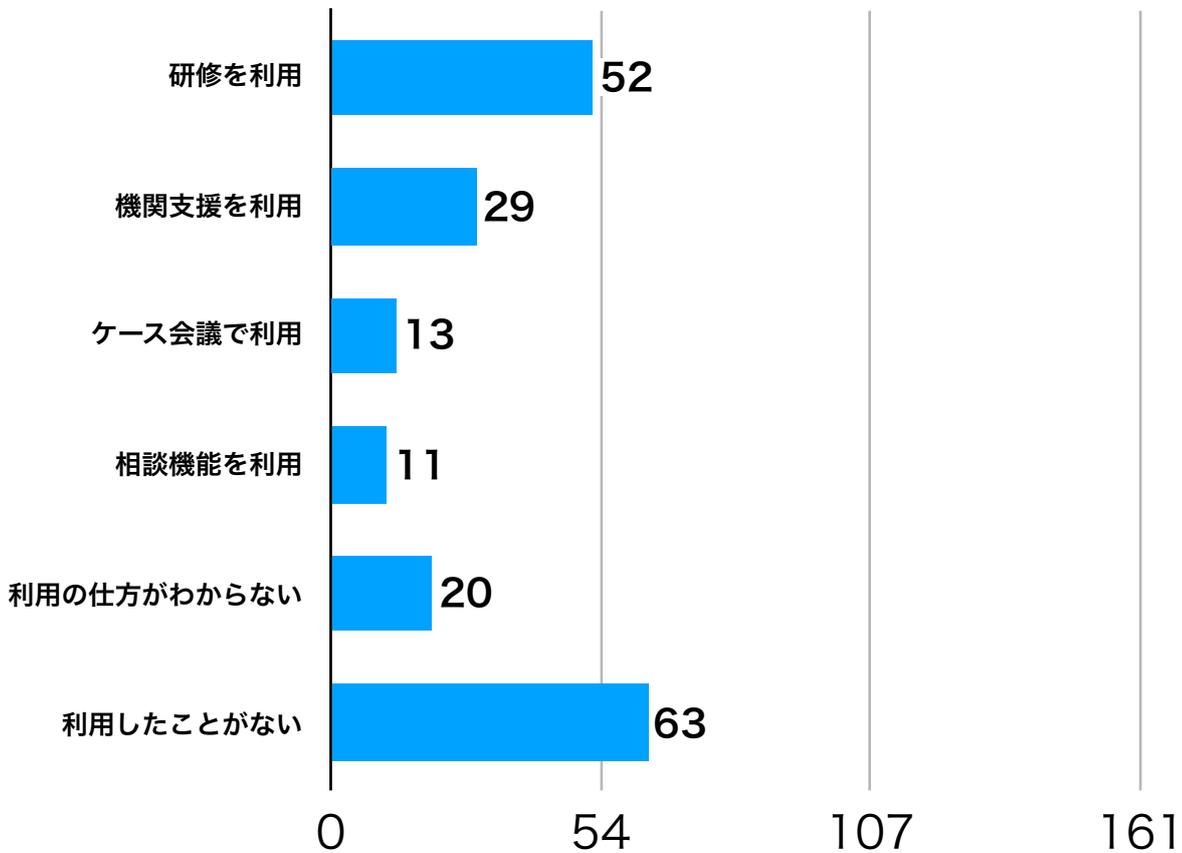


(5) 当センターの利用状況について

Q9 これまでに（アンケート回答時の研修を除き）当センターの利用内容についてお答えください

あてはまるものすべて選択する形式の設問である。結果は、「研修を利用」（32.3%）、「機関支援を利用」（18.0%）、「相談機能を利用」（6.8%）、「ケース会議で利用（8.1%）」、「利用の仕方がわからない（12.4%）」、「利用したことがない」（39.1%）となり、当センターの利用方法として「研修を利用」が最も多数であった。

■ 当センターの利用状況について (N = 161)



Q10 当センター作成の個別支援計画様式（みらくる）をご存知ですか

あてはまるものを1つ選択する形式の設問である。結果は、「使っている」（9.3%）、「使っていない」（37.9%）、「興味がある」（41.6%）、「使い方がわからない」（1.9%）、「未回答」（9.3%）となり、半数程度が「使っていない」と回答していた。

